

第70回 国立大学病院看護部長会議 実践報告

基礎教育と継続教育との連携による 看護実践能力獲得の取り組み

看護実践能力を育成できる看護師を育てるために

山形大学医学部附属病院
看護部長 齊藤律子



はじめに

看護管理者として目指すこと

看護実践能力を向上させること

⇒卓越したジェネラリストを育成すること

そのためには

看護師を育成できる力を持つ看護師を育てたい



基礎教育から重要

⇒

継続教育との連携の強化

看護学科と看護部の連携で主に取り組んでいること

1. 看護学教育ワークショップ
2. 看護学科と看護部の人事交流
3. 看護学科臨地実習と附属病院新採用者共通の看護技術チェックリストの導入
4. 看護職員への看護学科教員による「学び直し」支援

山形大学医学部看護学科と 山形大学医学部附属病院看護部の主な連携



1. 看護学教育ワークショップ

開催までの経緯

- 平成11年大学設置基準改正において、「大学はFDの実施に努める」等、大学の積極的な取組を促す方策が出された。
- 21世紀医学教育懇談会において、「附属病院は、医療人の育成・質の向上のための教育機関を併設しており、大学と附属病院の連携・協働は大きな課題である」と提言された。
- 看護系大学と臨床の連携・協働に関する課題として、新卒者の看護技術についてお互いがどのように取り組んでいくか、相互の人事交流、生涯学習があがっていた。



- 山形大学医学部看護学科と附属病院看護部では、全国に先駆け平成12年度「看護学教育ワークショップ」を立ち上げた。

看護学教育ワークショップ 開催状況

開催年 ・回数	テーマ	開催年 ・回数	テーマ
平成12年 第1回	看護実践の向上と21世紀の看護職人材育成を考える	平成21年 第10回	看護系人材養成の在り方
平成13年 第2回	新しい連携システムの創造に向けた相互理解	平成22年 第11回	今後の看護学基礎教育の質の保証の在り方
平成14年 第3回	看護実践能力育成の充実に向けた基礎教育のあり方ー看護技術教育における課題と戦略ー	平成23年 第12回	実践知と理論の統合を図るキャリア発達研修ー看護基礎教育への還元を目指してー
平成15年 第4回	看護実践能力を高めるためのカンファレンスの在り方ー臨地実習における学生カンファレンスの課題と方略ー	平成24年 第13回	実践と理論の統合を図る実習教育手法のスキルアップースチューデントナース教育の進化を目指してー
平成16年 第5回	優れた看護専門職者の育成に向けた連携の強化ー看護学科と看護の人的交流を目指してー	平成26年 第14回	実践と一体化した教育の推進ースチューデントナース実習指導要項の活用ー
平成17年 第6回	大学教育における看護技術の到達目標と現場が新人看護師に求める看護実践能力	平成27年 第15回	山形大学医学部看護学科と附属病院看護部の連携による看護実践教育の将来像
平成18年 第7回	看護学科と附属病院のシームレスな看護実践力育成方法の戦略	平成28年 第16回	山形大学医学部看護学科・看護部人事交流の成果ー授業・実習・実践への還元ー
平成19年 第8回	学生を共に支え、育てるためにー看護学ワークショップ7年間の成果と育成支援の実際ー	平成29年 第17回	看護学臨地実習から新人看護師研修への共通指導要項を用いた看護実践能力の獲得
平成20年 第9回	看護職のキャリア形成支援ー学生からはじめるキャリアの基盤形成ー	平成30年 第18回	看護実践における倫理的感性を備えた看護職者の育成

第18回 看護学教育ワークショップ

(平成30年1月24日開催)

- テーマ：「看護実践における倫理的感性を備えた看護職者の育成」
- 目的：医療現場に求められる倫理的感性を備えた看護職者の育成について学び、倫理に関する基礎教育と現任教育の質の向上を図り、相互理解を深める。
- 参加者：医学部看護学科教員・附属病院看護部職員
(管理部門・看護師長・副看護師長・実習指導者) 96名参加
- プログラム
 - 基調講演 新潟大学大学院保健学研究科
看護学専攻 教授 宮坂道夫先生
「看護職のための医療倫理
～原則・ナラティブ・手順～」
 - 事例検討・意見交換



ワークショップによる成果

看護学科教員と病院看護師との相互理解・共通認識

- ・教員：看護師が臨床で考えていること
- ・看護師：教員が学生に対して考えていること



看護基礎教育と臨床現場で必要とされている実践能力の乖離を防ぐこと

- * 新人看護師の職場適応への困難を克服するための教育方法
- * 基礎教育と臨床での継続教育で一貫性をもった教育体制の構築

2. 看護学科と看護部の人事交流

人事交流の目的

- 看護学科教員が病院で専門領域に係る実践研修を実施することにより、看護実践能力、マネジメント能力、実践に貢献する研究能力を高める
- 附属病院看護師が看護学科で教育及び実習指導を実施することにより教育力を高める

臨床研修による看護教員のキャリア発達支援プログラム

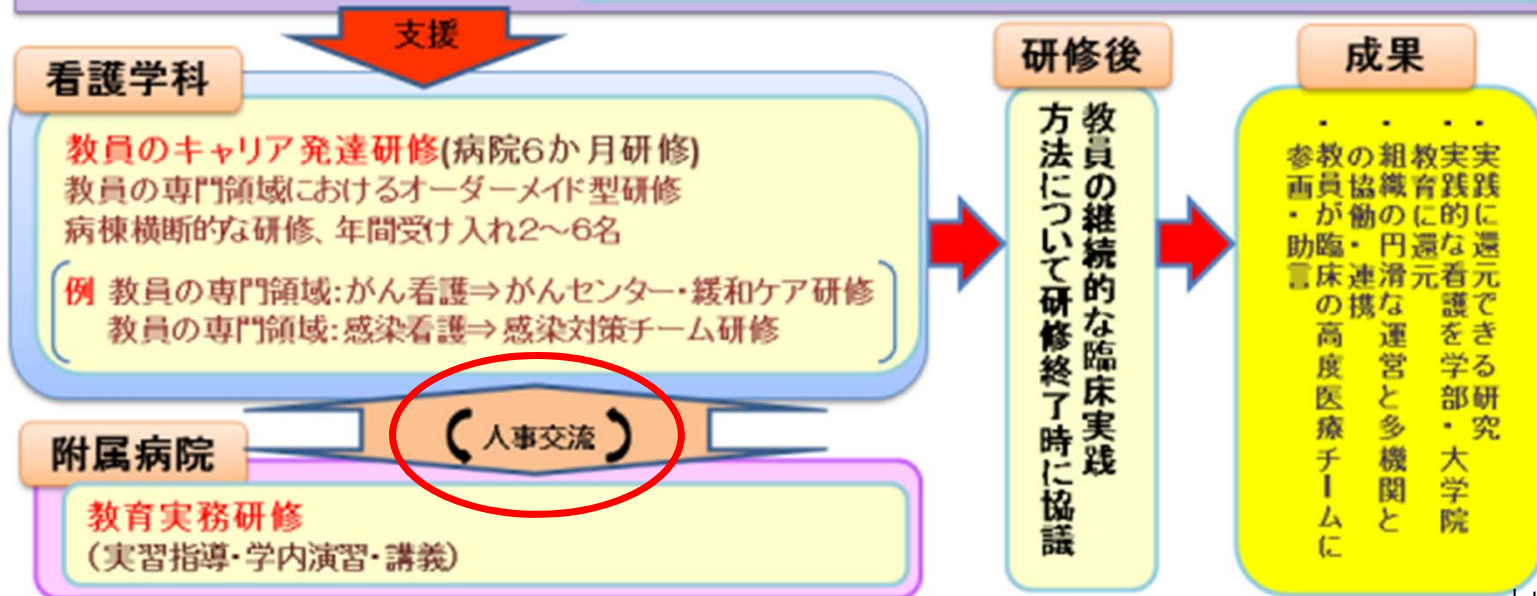
目的

看護教員が看護実践研修を実施し、看護実践能力、マネジメント能力、実践に貢献する研究・教育能力等を継続的に高めるシステムを確立する

看護教員キャリア発達支援センター設置

教員及び看護師の研修や、非常勤職員配置の計画・実施・調整等

組織 意思決定(学部長・病院長・看護学科長・看護部長)
研修・継続実践・成果還元企画調整(専任教員・看護師)
研修期間の職員補充(非常勤)



人事交流方法 **配置転換**

1. 期 間；6ヶ月（4月1日～9月末日、9月1日～2月末日）

2. 配置転換異動

・看護学科教員 ⇒ 附属病院看護師兼務

・附属病院看護師 ⇒ 看護学科教員（教育職）

3. 手順

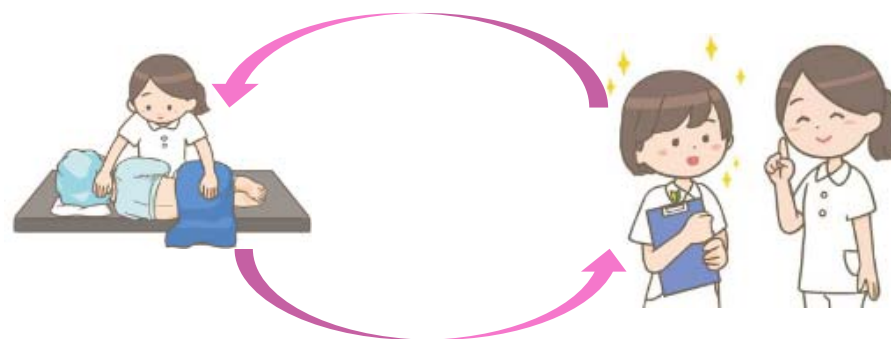
1) 人選

看護学科；助教の教員

看護部；副看護師長、若しくは同等とみなす看護師

（実習指導者講習会受講修了者）

⇒ 教授会で決定

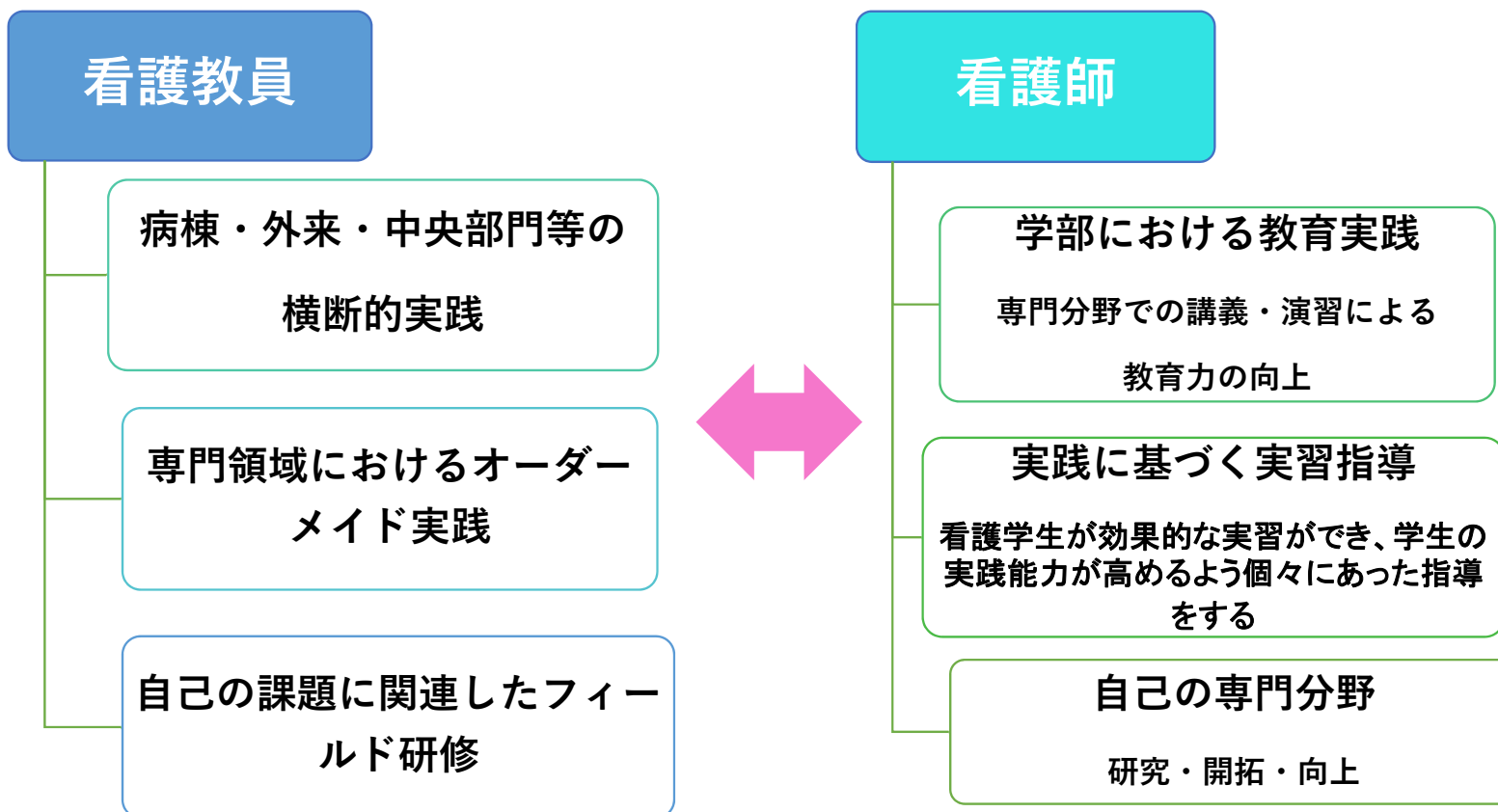


2) 配置部署

看護学科教員の専門領域、実習指導病棟

人事交流の内容

- 看護教員キャリア発達研修として、原則として6ヶ月間、山形大学医学部附属病院において、各教員の専門領域に基づく看護実践を研修する
- 上記研修期間中、附属病院看護師が、看護学科当該領域にて教育研究の実務研修を実施する。



人事交流(配置転換の実績)

前期：4月～9月 後期：9月～2月

年度	時期	看護学科教員交流先	看護師交流先	年度	時期	看護学科教員交流先	看護師交流先
平成23年度	前期	①消化器病センター（外科） 地域連携センター ②小児科	①地域看護学講座 ②小児看護学講座	平成27年度	前期	眼科、内分泌病棟	地域看護学講座
	後期	①循環器病センター ②外来	①成人看護学 急性期 ②成人看護学 慢性期		後期	消化器病センター（内科）	基礎看護学講座
平成24年度	前期	泌尿器科	地域看護学講座	平成28年度	前期	産婦人科病棟	母性看護学講座
	後期	産婦人科	母性看護学講座		後期	血液、神経内科病棟	成人看護学 慢性期
平成25年度	前期	血液、神経内科	成人看護学 慢性期	平成29年度	前期	泌尿器科病棟	老年看護学講座
	後期	泌尿器科	基礎看護学講座		後期	呼吸器病センター	成人看護学 急性期
平成26年度	前期	精神科	精神看護学講座	平成30年度	前期	血液、神経内科病棟	地域看護学講座
	後期	①血液、神経内科病棟 ②消化器病センター（外科）	①基礎看護学講座 ②老年看護学講座		後期		

看護学科教員の病院での主な実践活動

平成30年度

看護学科教員	活 動	内 容
教授・講師	褥瘡対策チーム	褥瘡チーム回診、褥瘡予防介入
教授	NSTチーム	NST活動への参加、実施介入の調整
教授	医療安全管理部員	医療安全管理部会への参加、院内ラウンド
教授・准教授	地域連携センター	退院支援カンファレンスへの参加
教授	感染制御部会	感染制御部会議への出席
准教授・講師・助教	母親学級	母親学級への参加・運営担当
	周産期カンファレンス	周産期カンファレンスへの参加
教授・准教授・助教	看護実践	<ul style="list-style-type: none"> ・治療中の観察とケア・症状管理に関する看護相談・ハンドマッサージ (外来化学療法室)
		<ul style="list-style-type: none"> ・前立腺がん患者へのケア (外来患者への診療補助、検査・処置)

人事交流による成果【看護部→学科】

研修目標の評価

- 講義、演習の企画実施
- 研究活動
卒業研究指導により
「研究マインドの育成」の
過程を経験
- 自己テーマの追求
- 実習環境の再考



成果

- 臨床での現任教育への反映
- 学生の実践能力向上のために
体験→知識の確認→振り返りが重要であることの認識
 - 看護部での研究活動の支援

3. 看護学科臨地実習と附属病院新卒新採用者との 共通の看護技術チェックリストの導入

現在までの経緯

- 平成18年「新卒及び新規採用者看護職員指導要項」初版発行
(平成22年 新規採用看護職員への臨床研修が努力義務化)
- 平成22年 看護学科においてStudent Nurse制度が導入
第3版改訂：指導要項使用対象に実習学生を追加
～看護学科から山形大学医学部附属病院に就職した学生は、
就職後も継続して指導要項を使用する～
- 平成27年 第5版改訂：領域別基本知識・技術評価表を追加
- 平成29年 第8版改訂：学生実習領域別評価表に変更
到達目標、評価方法、評価表を改訂



学生時代から
継続した教育を目指す

「Student Nurse実習指導要項」と 「新卒新規採用看護職員指導要項」の違い

看護学生

3. 看護職員の基本的知識・技術評価表 3-3

Student Nurse 3:教員や看護師の助言・指導のもと単独でできる 2:教員や看護師の指導・助言のもとでできる 1:見学

	高齢者		急性期		慢性期		精神		小児		母性		統合	
	評価	水準	評価	水準	評価	水準	評価	水準	評価	水準	評価	水準	評価	水準
L. 安全確保と苦痛緩和の技術														
126 対象に合わせた安楽な体位保持の実施ができる		3		3		3		3		3		3		3
127 対象に合わせた適切な温療法または冷療法の実施ができる		3		3		3		3		3		3		3
128 リラクゼーション（マッサージ・音・香りの工夫等）の実施ができる		3		3		3		3		2		3		3
129 薬剤・放射線曝露防止策の実施ができる		2		2		2		2		2		2		2
130 放射線曝露防止策（プロテクター、距離を確保する）を説明できる		2		2		2		2		2		2		2

実習領域別に評価する

新卒新採用看護師

3. 看護職員の基本的知識・技術評価表 3-3

新卒看護師 3:1人で説明・実施できる 2:指導や資料を用いて説明・実施できる 1:未経験または未学習

	3ヶ月			6ヶ月			9ヶ月			1年		
	自己	他者	評価	自己	他者	評価	自己	他者	評価	自己	他者	評価
L. 安全確保と苦痛緩和の技術												
126 対象に合わせた安楽な体位保持の実施ができる			3			3			3			3
127 対象に合わせた適切な温療法または冷療法の実施ができる			3			3			3			3
128 リラクゼーション（マッサージ・音・香りの工夫等）の実施ができる			3			3			3			3
129 薬剤曝露防止策（フェイスガード、マスク、手袋、エプロン）を説明できる			2			3			3			3
130 放射線曝露防止策（プロテクター、距離を確保する）を説明できる			2			3			3			3

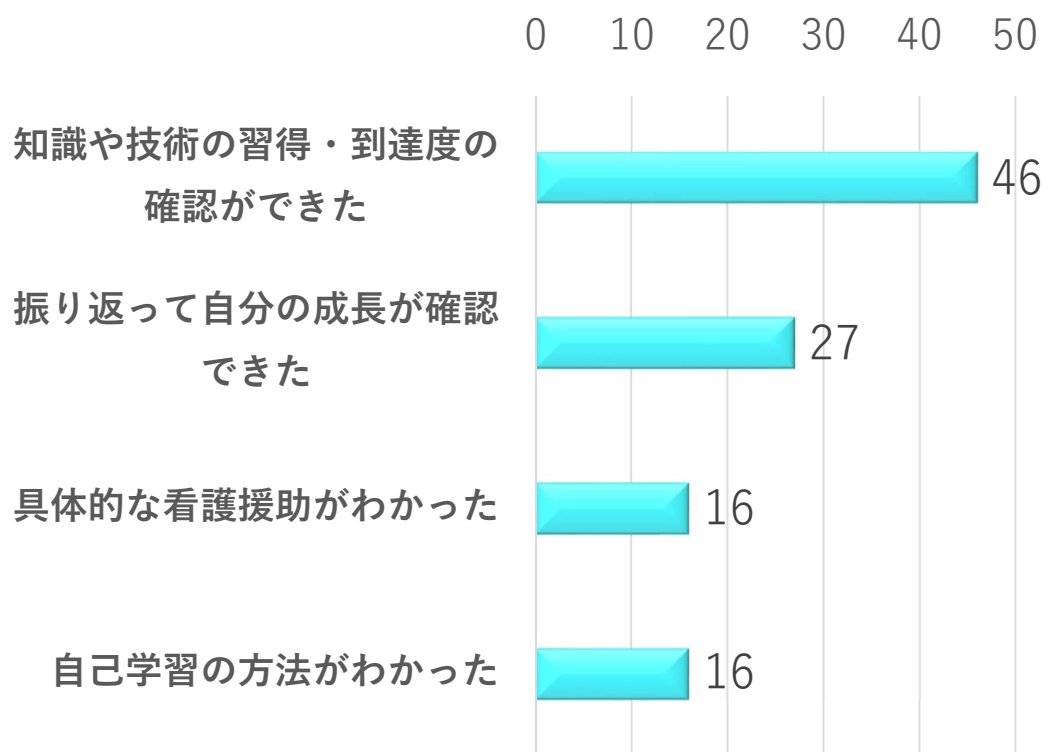
年間を通して評価する

「Student Nurse実習指導要項および
新卒新規採用看護職員指導要項」を
学生時代から就職後まで継続使用に対する評価

看護学科から附属病院へ就職した看護師を対象に調査を実施した

- 対象；平成27年度～29年度に山形大学看護学科卒業後附属病院に
就職した 看護師
- 対象数55名 有効回答53名

学生時代から継続して「Student Nurse
実習指導要項」を使用したことは
どのように役立ったか〈複数回答可〉



振り返り、習熟度の確認、自己学習などに役立つなど
継続使用の意義はある

「Student Nurse指導要項」を継続して
使用することについての自由意見
〈回答者44名中複数回答可〉



4. 看護学科教員による看護職員への学び直しの支援

- Brush up Program for professional - (文部科学省HPより)

教育再生実行会議「学び続ける」社会，全員参加型社会，地方創生を実現する教育の在り方について（第六次提言）」（平成27年3月）を受けて，大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として，大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」（BP）として文部科学大臣が認定することとした。

これにより、1. 社会人の学び直す選択肢の可視化、2. 大学等におけるプログラムの魅力向上、3. 企業等の理解増進を図り、厚生労働省の教育訓練給付制度とも連携し、社会人の学び直しを推進する。

山形大学医学部附属病院としてのBPは？



看護部職務規定・・・看護専門職としての責務
自ら学ぶ姿勢を持ち、生涯にわたり自己研鑽に努める。

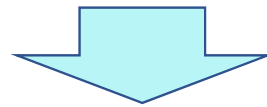
「卓越したジェネラリスト」
をめざして一歩一歩！



医学の専門基礎分野の知識をあらためて学び直す

看護学科の授業を聴講できる体制の整備

- 看護学科長への内諾
- 病院長、医学部長への交渉：主旨を説明し承諾を得る
- 科目の選定
看護実践能力・アセスメント能力向上に繋げる



平成29年度
(初年度)

解剖学 講義・実習
人間工学 講義
在宅看護論 講義

- 担当教員との打合せ

平成29年度 解剖学コース

時間：1回1日（9:00～16:00）（5回に分け開催）

内容：講義および解剖実習

参加者：170名

講師：医学部看護学科 基礎看護学講座 講師 石田陽子先生

受講資格

実践レベル2以上
看護師経験5年目以上



呼吸筋・刺激伝導系・ドレーン挿入部・排尿機構（導尿）・排便機構（浣腸）

門脈（側副血行路）・骨盤内蔵 ・骨盤底筋群・運動器（筋肉内注射）

解剖実習受講による臨床現場への効果

- 筋肉注射や点滴施行時、神経や血管の走行をイメージして実施できた。
- 脳神経を確実に覚えることができた。
- 解剖を意識してフォール挿入できている。
- 吸引や胃管挿入時安全な位置やチューブ挿入の長さの確認ができた。
- 退院指導時に解剖の知識を活かして説明することで患者の理解が得られやすい。
- なぜここにドレーンが留置されているのかわかり、観察に活かすことができた。
- 心臓の動きをイメージして疾患と照らし合わせて観察している。
- 横隔膜の拡がりを意識した呼吸ケア、体位の工夫等に活かした。
- 臓器の構造を思い浮かべて病態を考えるようになった。
- 生検時、臓器の構造上の特徴を理解した看護実践ができた。
- 新人や学生指導時ケアの根拠をふまえた説明ができた。
- 安全面を意識した看護援助についてスタッフ指導に活かしている。

今後の展望

基礎教育と継続教育の連携・協働をさらにすすめることにより
看護師の実践能力向上に向けた教育指導ができる看護師を育成する



- ✓多くの実践現場を体験し、患者の立場になって考えられる看護師
- ✓エビデンスを考え行動できる看護師
- ✓学び続ける看護師、自己成長し続ける看護師



卓越したジェネラリスト